

## 天気編集委員会からのお知らせ

1. 本誌をご覧になってお気づきのとおり、今月号から多量の広告を掲載することになりました。これは、郵便料の値上げや天気編集事務態勢の整備（後述）による経費増加を補い、会費値上げに極力避けるためにとった措置です。広告会社（科学技術社）との契約で、表紙2・3・4頁と本文の前後が広告頁になります。これに伴って従来表紙3頁と4頁に掲載してきた学会告示やお知らせは、色紙に印刷して本文中に繰込み、その対向頁（あるいは裏頁）にこれまで表紙2頁に掲載していた欧文表題（contents）と賛助会員名簿を載せることにします。

2. 本誌の編集事務は発刊以来これまで主として気象庁の建物の中に勤務している会員が分担してきました。しかし次第に雑誌の頁数が増加し、編集事務量は経験を積んだ専門の編集者がかかりきりでも一名では処理しきれない分量に達しています。他方業務の繁忙化など諸般

の状況の変化のために、編集委員の献身的な努力にのみ依存して、編集事務を処理することは、もはや不可能になりました。

学会活動における本誌の重要性からみると、専任の編集事務担当者をおくことが望ましいのですが、学会財政など諸般の条件を考慮し、当分の間、天気編集委員会にパートタイムの編集書記をおいて編集事務の大半を処理することにいたしました。次期の編集委員会が成立する今夏までにこの方式に完全に移行できるよう整備したいと考えておりますが、ここしばらく会誌の発行や事務処理の面で多少の不行届きもあろうかと存じますので、会員各位の御理解をお願い申し上げます。

（なお編集書記は小平百合子嬢にお願いしました）

（編集委員長）

## 気候変動とそれが食糧に及ぼす影響に関する国際シンポジウム

下記の通り国際シンポジウムを開催いたします。日本気象学会員諸氏の積局的な御参加を希望いたします。詳しいことは、〒300-31 茨城県新治郡桜村筑波大学地球科学系 吉野正敏（電話 0298-53-4306）にお問い合わせ願います。

「気候変動とそれが食糧に及ぼす影響に関するシンポジウム」実行委員会

委員長 高橋浩一郎

記

期間 1976年10月4～8日

場所 筑波および東京

目的 近年、気候変動とそれが食糧に及ぼす影響に関しては世界の大きな問題である。特に南アジア・東南アジア・東アジア諸国では非常に重要な課題である。すで

に半球規模または地球規模では昨年中にも同じような主旨のシンポジウムが世界の諸所で開催されたが、アジア諸国を中心にして討論したものは開かれていない。ここに計画したシンポジウムは、上記の諸国に観点を置いて研究発表を行ない、討論することを目的としたものである。

内容 1. 上記の諸地域における気候変動の実態、2. 気候変動と農作物生産との関連、3. 気候変動のモデル・将来予測など。

参加者 時間の制限のため、話題提供者および発表者は限られた数の方しかお願いできませんが、討論には多数の方の参加を期待致しております。発表を御希望の方や関心をお持ちの方は、ぜひ上記にお問い合わせ願います。